

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナールⅣ (SeminarⅣ)					担当教員	王 子龍 (オウ シリュウ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	協同学修型AL/課題解決型AL
	2025-0-41-061	ゼミナール 科目	必修	2単位	4年次	通年		
2024-26年度 入学者(24K-26K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	協同学修型AL/課題解決型AL
	2425-0-41-006	ゼミナール 科目	必修	2単位	4年次	通年		

① 授業のねらい・概要					
本ゼミでは、地域活性化を主題とし、地域資源の発掘・分析・発信を通じて地域の魅力や課題を考えることを目的とする。これまでの取り組みも尊重しつつ、履修者の関心に応じてテーマを設定し、多様な地域資源を題材として調査・分析を行う。産業や商業、交通などの視点から地域を多角的に捉え、実践的な取り組みを通じて地域を構造的に理解する視点を養う。歴史的背景や産業構造にも目を向け、資料調査や議論、発表を通じて地域を多面的に捉える力と情報収集・分析力の向上を目指す。					
② ディプロマ・ポリシーとの関連					
地域社会に貢献する姿勢/職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力/コミュニケーション能力/情報収集・分析力					
③ 授業の進め方・指示事項					
少人数ゼミ形式で行い、学生の主体的な参加を重視する。前半は地域理解のための基礎調査やテーマ設定を行い、中盤以降は個人またはグループでの調査・整理・発表を進める。必要に応じてGoogle Classroom等を用いて資料共有や課題提示を行う。ゼミでは積極的な発言や議論への参加が求められる。					
④ 関連科目・履修しておくべき科目と履修に望ましい予備知識・技能					
特に必須となる科目はないが、地域社会や経済、地域の成り立ちに関する基礎科目を履修していると理解が深まる。					
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。					
テキストは指定しない。各回、必要に応じてレジュメや参考資料を配布する。					
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。					
矢作敏行他(2017)『地域商業の底力を探る—商業近代化からまちづくりへ』白桃書房。 その他、テーマに関連した参考文献や資料を必要に応じて紹介する。					
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)					
本ゼミでは、特定の活動に限定せず、地域を多面的に考えるゼミである。これまでの取り組みも尊重しつつ、関心に応じたテーマと一緒に見つけていく。地域活性化に関心があれば、得意分野は問わないので安心して参加してほしい。					
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安					
(1)地域に関する情報を主体的に収集し整理できる。 (2)調査内容を分かりやすくまとめて発信できる。 (3)他者と協力しながら継続的に課題に取り組める。					
⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1) 情報収集力	多様な資料や情報源を自ら探索し、独自の視点で整理・分析できる。	必要な資料や情報を主体的に収集し、適切に整理できる。	指示に基づいて資料を収集し、基本的な整理ができる。	資料を収集し整理することが一部できる。	資料を収集して整理することができない。
(2) 発信・まとめ力	内容を論理的に構成し、説得力のある発表・資料として発信できる。	調査内容を整理し、分かりやすく発表・資料としてまとめることができる。	基本的な内容を整理して発表できる。	内容を整理して発表することが一部できる。	内容を適切にまとめて発信することができない。
(3) 協働・継続力	主体的に役割を担い、周囲と協力しながら継続的に活動を推進できる。	チームの一員として協力し、継続的に課題に取り組むことができる。	指示に従って活動に参加し、役割を遂行できる。	協働して活動に参加することが一部できる。	協働的な活動に参加できない。

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計	
総合評価割合	40%			20%	40%		100%	
(1) 情報収集力	20%			5%	5%		30%	
(2) 発信・まとめ力	20%			15%	5%		40%	
(3) 協働・継続力					30%		30%	
評価項目「その他」詳細								
フィードバックの方法	発表後に講評を行い、改善点を共有する。最終レポートにはコメントを付して返却する。							
⑪ 授業計画と学習課題								
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）						
1	ガイダンス：ゼミの目的と進め方の説明	自分の関心のある地域テーマを整理						120分
2	地域活性化の基本視点（産業・商業・まちづくり）	関心テーマに関する事例を調査						120分
3	地域調査の方法①（資料調査の基礎）	文献・統計資料の収集						120分
4	地域調査の方法②（フィールドワークの考え方）	調査対象候補の整理						120分
5	テーマ設定ワーク①（個人案の共有）	テーマ案のブラッシュアップ						120分
6	テーマ設定ワーク②（グループ検討）	最終テーマの決定						120分
7	調査計画の作成	調査計画書の作成						150分
8	調査計画の発表・講評	指摘点の修正						120分
9	資料調査①	情報収集の継続						150分
10	資料調査②	データ整理						150分
11	中間報告①	報告資料の修正						120分
12	中間報告②	分析の深掘り						120分
13	分析方法の検討	分析視点の整理						120分
14	事例比較・ディスカッション	比較観点の整理						120分
15	前半まとめ・振り返り	研究計画の再整理						150分
16	後半の進め方の確認	研究計画の見直し						120分
17	追加調査①	不足資料の収集						150分
18	追加調査②	データ分析						150分
19	発表構成の検討	発表構成案作成						120分
20	発表構成案作成	フィードバック反映						120分
21	プレ発表	内容の改善						120分
22	最終分析の整理	レポート草稿作成						150分
23	最終発表準備①	スライド作成						150分
24	最終発表準備②	発表練習						150分
25	最終発表①	レポート修正						120分

26	最終発表②	最終修正	120分
27	総合ディスカッション	レポート完成	120分
28	最終レポート提出・講評	振り返り記述	60分
29	ゼミ活動の総括	自己評価シート作成	60分
30	まとめ・次年度への展望共有	ゼミ活動の振り返りをまとめる	60分
⑫ アクティブラーニングについて			
本ゼミでは協同学修型ALと課題解決型ALを採用する。履修者が主体的にテーマを設定し、調査・議論・発表を通じて学びを深めるスタイルで授業を行う。			

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性